

2017年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	紙の上のいきものたち！！			担当者名	学芸係 藤村拓也				
会期	2017年7月29日(土)～9月24日(日)			開催日数	50日間				
協賛・後援・協力	共催:読売新聞社、美術館連絡協議会 協賛:ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網 協力:町田市大賀竊絲館、クラフト工房La Mano								
巡回館	なし								
展覧会概要	さまざまな版画の技法によって表された動物や植物、虫などの生物を紹介する展覧会。写実的に植物が描かれた草本誌や、動物の姿を借りて人間の愚かさを諷刺する寓話集、そして魅力ある生命をテーマとした現代作家らの作品などを展示した。また町田市内の福祉施設で使われている植物由来の染料を用いた、町田市在住の版画家による新作版画も展示。出品総数は当館の収蔵品を中心とした全133点。								
ねらい・対象	古今の版画に表された生物のすがた・かたちを楽しんでもらうと同時に、そこに人間の生物に対する見方や考え方が映し出されていることに気付いてもらうことを目的とした。また生物が人間の生活に欠かせない存在であることを紹介するために、微生物による発酵によって発色する植物由来の染料を使った版画を展示した。また開催時期が夏休みと重なるため、主な対象を市内外の子どもたちとし、以上の内容を平易に解説することを目指し、普及係と小・中学生向けの鑑賞ガイドも作成・配布した。								
関連催事	催事名		開催日		タイトル		講師等		参加者数
	バックヤードツアー		8月5日(土) 8月19日(土)		びじゅつかん探検ツアー		担当学芸員 藤村拓也		計10名
	ギャラリートーク		8月6、20日 9月3、10、17日(日)		ギャラリートーク		当館館長 村田哲朗 担当学芸員 藤村拓也		計98人
	プロムナードコンサート		9月9日(土)		プロムナードコンサート		玉川大学芸術学部 桜美林大学芸術文化学群		153人
観覧料	一般	65歳以上	大・高生	※観覧料は第2企画展示室で開催の「インプリントまちだ展2017」と合わせた料金設定とした。					
	600円	300円	300円	※観覧者数も第2企画展示室と一体として集計した。					
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他	
	3,488人	2,529人	6,017人	3,652人	729人	260人	1,376人	—人	
	目標値		7,410人						
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源		
	1,586千円		—千円		41千円		—千円		
事業経費	【展覧会開催経費】								
	・展覧会協力				50千円				
	・展覧会出陳謝礼				50千円				
	・作品展示撤去委託料				314千円				
	・ディスプレイ作成委託料				466千円		計 1,557千円		
	・作品額装委託料				148千円				
・展覧会ポスター等作成委託料				529千円					

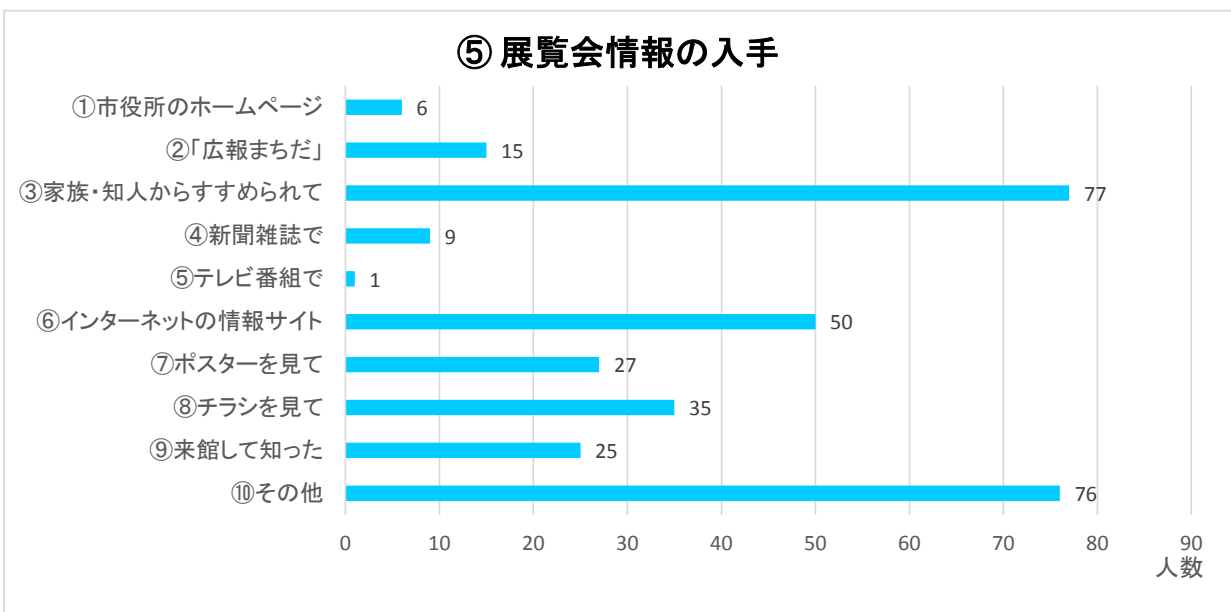
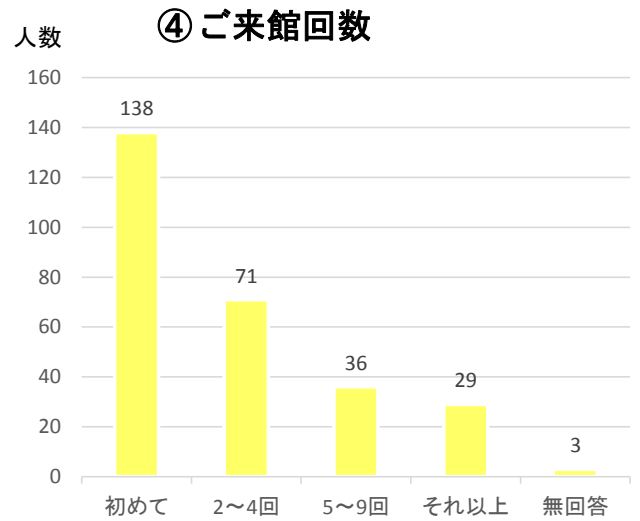
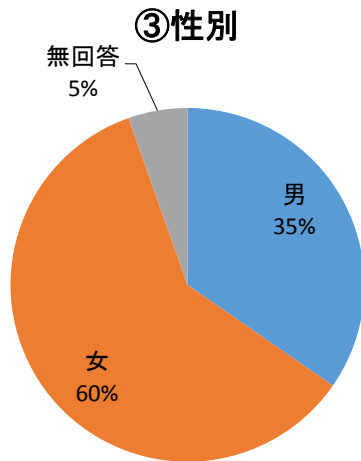
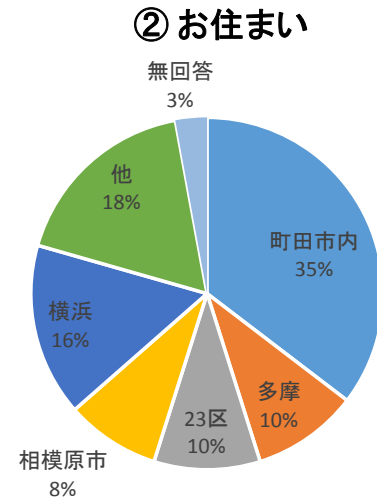
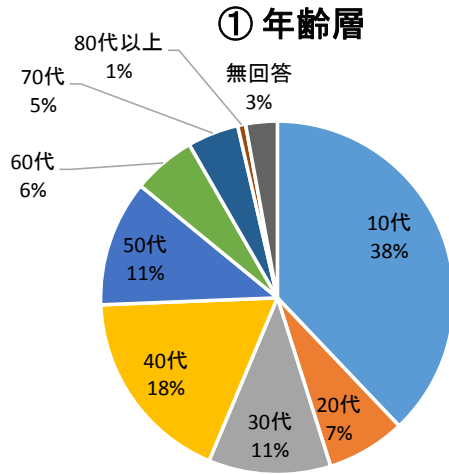
主な広報・取材等の講評	『読売新聞』(首都圏版に開催記事の掲載) 『読売新聞』(多摩版に連載記事3回の掲載) 『リビングまちださがみ』『船橋よみうり』他(フリーペーパー各種、開催記事の掲載)						
アンケート結果 ※インプリントまちだ展2017と共通	回収数 280 件	回収率 4.7 %	市民率 35 %	リピーター率 49 %	満足度(とても良かったと良かったの率)		
企画の内容		展示作品 92 %	展示の仕方等 78 %				
反省点と改善方法		主なご意見 別紙のとおり。 ※アンケートは第2企画展示室の「インプリントまちだ展2017」とあわせて集計した。					
予備調査	約1年前から作品調査や文献調査などをおこなった。また夏休みの子どもを対象とした展覧会となるため、調査と並行して普及係と鑑賞ガイドについての打ち合わせを綿密におこなった。その過程で挙がった出品作家や協力施設にも早めの相談を心がけ、円滑な展覧会準備・運営の素地とした。						
作品選択	当館の収蔵品を中心に構成。展示の各章のテーマごとに生物が表現された古今のさまざまな版画をバランスよく選出することができた。また本展では町田市在住の版画家・竹上妙氏に出品と新作の制作を依頼。出品作品の選定や、新作制作のための調査などを竹上氏と密におこなった。その他、町田市大賀藕絲館とクラフト工房La Manoに新作の材料提供と、その原料の出品を依頼。同じく調査や連絡を密におこなったことで、作品の選定から展示、返却までを問題なく進めることができた。						
図録作成	図録はなし。小・中学生向けの鑑賞ガイドを3200部作成し、無料配布した。子ども向けであることを考慮して、判型はA6サイズとした。また子どもたちが手に取りやすい内容を目指し、図版を中心とした平易な解説文とした。デザインについても、竹上氏の作品を用いた表紙や挿図によって目を引くものとなった。なお本ガイドは準備段階から普及係と協力して作成した。またデザイン・内容とともに具体的なイメージがある程度できたうえで、委託業者に依頼することができたため、円滑に制作を進めることができた。						
ディスプレイ	章解説や作品解説については、鑑賞ガイドと同じく、子ども向けの平易な文章表現を心がけた。また「あなたは犬派？それとも猫派？」の章では、作品を見て犬か猫に投票できるコーナーを設置。鑑賞の途中に一息ついて楽しんでもらえる工夫とした。委託業者との連絡や実際の作業については滞りなくおこなうことができた。一方で子ども向けゆえか、「解説の内容が物足りない」というアンケートの意見があった。また今まで度々「順路が分かりにくい」との指摘があったため、サインスタンドだけでなく、床面に矢印シールを貼ることで案内を充実させた。しかし未だ分かりにくいという声があったため、よりユニバーサルな解説・案内を目指す必要がある。						
広報	展覧会の約1ヶ月前に、プレスリリースを発送した。共催の読売新聞全国版の開催記事をはじめ、同社多摩版には3回にわたり、担当学芸員による出品作品の紹介記事が掲載された。また出品作家のSNSを通じて本展を紹介。アンケート結果からも口コミやインターネットを情報源とする来館者が増えていることがわかる。当館も今年度末から来年度初めにSNS(twitter)を開始する予定であり、活用方法をより具体的に検討していく必要がある。						
イベント	恒例のギャラリートークとコンサートの他、小学生向けのバックヤードツアーである「びじゅつかん探検ツアー」をおこなった。企画から申込方法までは問題なく進めた。ツアー当日も事故や参加者のケガも無く終えることができた。ただし保護者同伴を必須としなかったため、子どもだけの参加者に目が届きにくい状況が生まれやすかった。今回は博物館実習の学生をフォロー役としたため、安全面の十分な配慮ができたが、今後は保護者同伴を申込条件とするか、案内人の他に少なくとも2名の補助を確保する必要がある。						
作品輸送	作品輸送は庁用車を利用し、特に大きな問題はなかった。						
展示撤去	展示撤去は予定通り進み、特に大きな問題はなかった。						
その他特記事項	当館の収蔵品とあわせて、町田市内にある施設(町田大賀藕絲館、クラフト工房La Mano)や在住作家(竹上妙氏)の活動を紹介することで、町田の魅力を多角にアピールできる機会となった。						

「紙の上のいきものたち！！」展

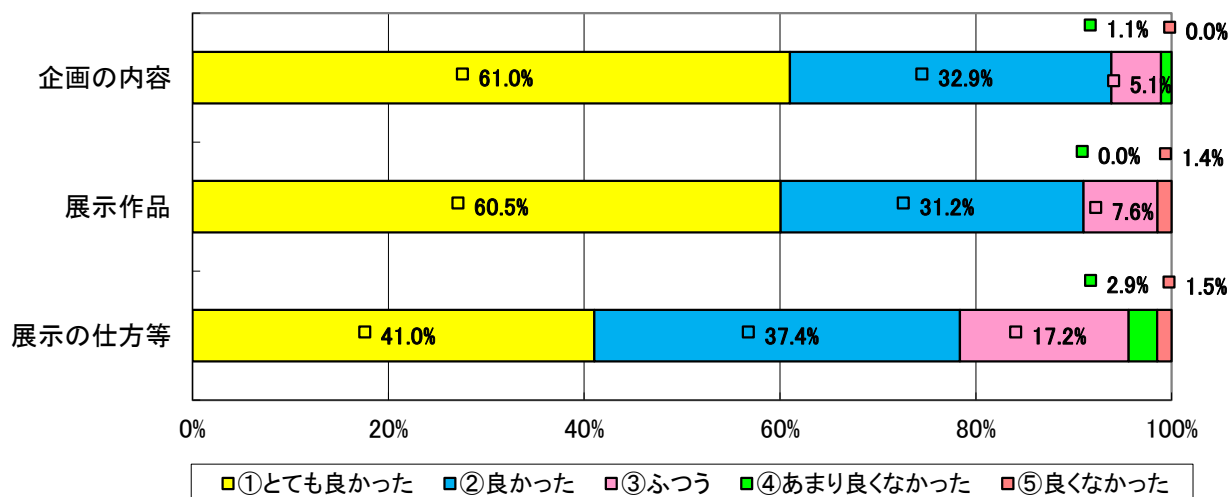
アンケート集計結果

開催期間：2017年7月29日（土）～9月24日（日）

回答者数： 280 人（総入館者数：6,017人 アンケート回収率： 4.7%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆無料でフリートークOK、気軽に来てよかった。◆フリートーク日の取り組みがよいと思いました。つづけてほしいとirikみです。◆「動物」というテーマが分かりやすかった。◆地元の若手作家の作品を展示していたことにとても好感がもてました。子どもと一緒に来館したので、フリートーク日でよかったです。ワークショップなどもふやしてもらえたらまた来館したいです。◆町田の染料を使っの版画に興味を持ちました。町田の福祉施設のこと初めて知ったので、市内のいろいろなコラボレーションで、おもしろさの広がりが感じられてよかった。◆色々な視点や種類の作品があり、見応えがあった。ほど良い展示の量で充実していた。◆写真OK、ダメがよくわかる。◆版画が昔からどんな目的で使われてきて、今はアートということなど、流れが分かりやすかった。◆竹上妙さんの作品がフレッシュで魅力的でした。◆子供連れに親しみのある内容◆生きものというテーマが夏に合っていたと思う。竹上さんの作品、展示の仕方も含め、すばらしい！LaManoのことなど、町田に住んでいても知らなかったの、あらたな発見があってよかった！◆親しみやすいテーマで親子(小3)で楽しめました。矢印などわかりやすくてよかった。◆床に進む順があって回りやすかった。◆若手育成・応援の立場で展示する企画・アイデアはとて面白いと思いました。

◆トークフリーデーがうるさい。◆順路が少し分かりにくかった。◆(監視員が)もう少し親切だと良いと思いました。◆照明が少し暗いのでは？◆もっと子ども向けのものもあるとよい。◆少し物足りない感じ、もう少し作品の解説がほしい。もう少し広告を出してほしい。◆細かい文字を見るので、もう少し明るい良かった。◆もうちょっと説明書きがあっても良かった。◆「ポケット学芸員」アプリに加入して展示品の解説をきけるようにしてほしい。◆お子さんに喜ばれる企画(スタンプ、グッズ、クイズなど)があると人気ができるかもしれません。◆見る順番がわからない。◆監視員が細かく注意きた。注意事項を当たり前のことでも書いてあったほうがわかりやすいです。◆作品の文字を翻訳し欲しい。見え易くする工夫が欲しい。◆監視員の目が厳しい。落ち着いて鑑賞できない。◆順路がわかりにくい。出口の表示が明確でないのは、防災上も危険だと思われます。◆壁面の穴を塞いだ跡が目立っていた。館に通じる急坂が、少し危ないかと思いました。◆順路がすこしわかりにくかったです。◆もう少し子ども向けの要素があると良かった。◆展示品は良いが、説明が少ない。

来館者層は10代が最も多く、次が40代だった。会期が夏休みと重なることから、子どもを主な対象とした展覧会内容にしたことで、小中学生とその保護者層にあたる年齢層が多くなったと推察される。一方で20代の割合が低い。大学生や専門学校生などにもアピールできる企画内容と、SNSによる広報活動を検討していく必要があるといえる。住まいは「町田市内」が最も多かった。普及係の協力により市内の小中学生向けのチラシを配布したことが、一因と考えられる。性別や来館数は平均的な結果となり、来館者数は6,000人を超えた。展覧会の情報入手先としては、「家族・知人からすすめられて」、すなわち口コミでの来館者が最も多い。次いで「その他」、そして「インターネットの情報サイト」である。当館のHPだけでなく、SNSを情報源とする来館者も複数あることから、来年度から導入予定のtwitterを積極的に活用していきたい。

意見・感想からは、子ども向けの内容をはじめ、写真撮影、トークフリーデー、展示順路、監視員へのについての賛否が多数を占めた。特に写真撮影やトークフリーデーは、美術館の対応はもちろんのこと、来館者の考え方も過渡期にあると考えられることから、試行錯誤を繰り返しつつ、より良いあり方を検討していく必要があるだろう。その他、町田市内の施設や在住の作家を紹介する試みを評価する声も多かった。